

令和2年度第2回麒麟のまち創生戦略会議・サミット議事概要

日 時：令和2年11月16日（月）サミット：午後3時～午後4時

創生戦略会議：午後4時10分～5時15分

場 所：若桜町公民館集会室

出席者：サミット①②、創生戦略会議①のみ

①鳥取市長、鳥取市副市長、岩美町長、若桜町長、智頭町長、八頭町副町長、
香美町長、新温泉町長

②鳥取市議会議員、若桜町議会議員、智頭町議会議員、八頭町議会議員
香美町議会議員、新温泉町議会議員

【サミット】

1 開 会 若桜町長あいさつ

2 意見交換 テーマ 「ウィズコロナ・アフターコロナにおける地方創生の取組について」

《岩美町長》コロナウイルス感染症については、いつ町内で発生してもおかしくはなく、誹謗中傷が発生しないよう、啓発をしていかなければならないと思っている。

ウィズコロナの取組として、国の交付金を使っての事業を行っているところ。岩美町では、町立病院を抱える中で、インフルエンザの流行とコロナウイルス感染を区別し、医療崩壊のリスクを下げることを目的に、インフルエンザの予防接種を、全住民に無料で受けていただくことにしている。10月からスタートし、10月末時点で全体の3割、また65歳以上については55%が受けており、今後、全住民に受けてほしいと思っている。また町内の医療機関においては、受診控えにより病院経営が落ち込んでいるため、昨年度の外来患者数に応じ、上限200万円までを交付させていただくこととしている。

さらに、観光分野では、11/6～の松葉ガニの解禁に合わせ、国のG o T oキャンペーンと合わせて使えるもので、宿泊があれば最大1万円、民宿であれば5千円補助するというキャンペーンをスタートしたところである。11月末で4割が使用できており、評判は良いようだ。

現段階では、地域の経済対策と、町民の健康対策について、力を入れているところである。アフターコロナについては、今の段階では考えてはいないが、なんとかコロナ感染症を食い止め、収まった際には即時対応し、元に戻せるようにしていきたい。

《若桜町長》若桜町では、8月からバーベキューフェアを実施し、県東部地域の方にお越しいただいた。町外の方が7割で、当初5千人を想定していたが、7千人に利用いただいた。経済効果は3千万円程度上がっており、町内の食材を使用することで、氷ノ山の民宿や農家さんにも、経済効果があったと思う。

現在は、丸ごとキャンペーンという一人1万円という商品券の配付を実施しており、さらに10月末には各世帯にコロナ対策物品を入れた非常用持ち出し袋を全戸配布した。30品目を入れたもので、非常時に持ち出せるよう避難

訓練の際にも周知していく。

また、冬を迎えるにあたり、若桜鉄道の観光利用を増やすために、現在、通常 55,000 円で運行している貸し切り列車を無料で走らせ、利用いただいているところ。今後は、若桜鉄道の利用者に、氷ノ山スキー場のウェア、ボードのレンタル料金を全部無料にする取組を実施し、冬場の利用拡大を図っていききたい。

また、今後PCR検査が拡大される中で、医療施設、介護・福祉施設の予防対策として従事者への支援をもう少し厚くしていく必要があると感じている。

経済対策についても、現在各市町でしているが、何とか連携していけるものがないか、是非考えていただきたいと思う。

《若桜町議長》コロナウイルスについては、以前の生活に戻ることは不可能だと言われており、住民の生活環境・仕事環境を十分に把握し、今までの経済対策はもちろん、コロナウイルス終息後を見据えた中長期的な対策が必要である。長引くことを想定しながら、国のコロナウイルス感染症対策の臨時交付金を十分に活用して行くことが必要である。

《智頭町議長》ウィズコロナの取組として、町内のみで使用できる地域通貨として商品券を配布している。一人5千円で第1弾、第2弾と実施しており、第1弾の使用が97.5%、第2弾は1月末までの利用が可能で、地域経済の活性化を目的に取り組んでいる。

また、子育て世代の収入が減少していることに鑑み、給食代を無償化しており、これは今後も継続していきたいと考えている。

また、町内各世帯に設置した告知端末機が更新時期にきており、住民の生活に投資するという意味で、新たな機能の開発の開発に取り組んでいるところ。

《智頭町議長》麒麟のまちの取組について、コロナ禍でインバウンドの喚起など考えられていたことが行えないという状況にある。今後、ウィズコロナの取組を考えるにあたり、しっかりと地域資源を見直していかなければならないと思う。麒麟のまち1市6町が、それぞれの宝を見つけ、磨き上げていくことによって、点から線、線から面という広域で魅力ある地域づくりが必要と感じている。

その手法の1つとして、個人的には、若い女性の心を掴む取組が一番大切ではないかと思っている。「インスタ映え」という言葉に象徴されるように、若い女性がSNSを活用して、口コミで拡散することでPRができるが、これを地域で行うことで、地域に変化が起きるのではないかと思う。まちや住民の意識が変わっていくことで相乗効果が生まれる。若い女性の視点を考えたまちづくりが、とても大切ではないかと思う。

《八頭副町議長》ウィズコロナの取組として、国の交付金を活用し事業として、県が行う医療機関等への支援に、町独自で2万円の上乗せを実施しており、申し込みを受けている。

さらに町内を回る行政懇談会で町内会長等の意見を伺う中で、総会シーズンを迎えるにあたり、手指消毒材等の要望があり、配布を予定している。

また、今年は災害がなかったが、コロナによる避難所の分散化が必要であり、集会所などの環境整備が求められている。トイレの様式化・エアコン設置について、通常の支援を嵩上げするようにし、地元2割負担程度で実施できるよう、12月議会で予算化を予定している。

今後、来年度予算編成時期に入っていくが、コロナの終息が見えない中で、町内企業・事業者にどういった影響があるのか予測が難しいが、検討をしてみたい。

また、町内でヤマメ養殖業があり、今年度イベント等がなく余剰があったものを、若桜町のバーベキューや、近隣町の学校給食で活用いただいた、この場を借りて御礼を申し上げたい。

《八頭町議長》11月議会で、ウィズコロナ、地方創生の取組として、隼L a b. のテナオオフィスの契約を承認したところ。これまで、マスクの配布や学校のタブレット購入、高齢者の予防接種、町単独での事業経費の助成、各個人への商品券の配付など実施している。

コロナの終息が分からない状況の中で、執行部と議会がともに取り組んでいくべきと思っている。1日も早いコロナ終息を願っており、地域・住民の皆さんが元気になれることを期待している。

《香美町長》香美町のコロナ対策について、補助事業等を執行中である。コロナが発生した当初はマスクが不足しており、マスクの全世帯配付を行った。また給付金の支給にあたって、事務的手続きのコピーのサービスを行い、高齢者の方には喜んでいただいた。

またコロナ感染症の拡大時期にあたっては、国の交付金を活用した施策として、高齢者の健康管理のためのエアコン設置について10万円/台を支給し、大変喜ばれた。当初予算では不足、予備費で対応、さらに臨時補正をし、5,600万円程度の事業となった。

産業支援については、香美町の基幹産業である漁業・水産加工業・畜産業の各業界から、コロナ禍から立ち上がるために必要な高度な取組について、意見を伺った。漁業においては海水を汲み上げる施設、水産加工業においては冷凍冷蔵施設の前処理を行う施設の拡充など、各事業取り組んでいるところ。

各町の取組の御説明をいただいたところであり、岩美町の観光対策など、交付金を活用する上で参考にさせていただきたい。

《香美町議長》このコロナ禍で、様々な立場の弱者の方がおられることが分かった。

特に地域の医療は脆弱であり、万一のことが起こった場合どうなるのかと危惧している。また教育の問題について、オンラインでの実施がどこまで可能なのかということも考えられる。さらに、観光面・産業面での脆さがあり、今後の支援を考えていかなければいけない。

東京の一極集中は依然として続いており、1つの自治体では何もできない。麒麟のまちで一致団結して、テレワークをされる方など都市部から受け入れができる地域になればよいと思う。

《新温泉町》麒麟のまちのマグネットステッカーについては、新温泉町は鳥取市内を利用する町民が多く、生活に深いつながりがあり、活用された。最終的に4,000枚を印刷することになり、町民に無料で配布した。

新温泉町では、湯村温泉で最も古い「とみや旅館」が3月31日に倒産し、また肥育素牛の販売価格が暴落したこと、さらに3～4月のホテルイカの価格暴落などがあり、危機感をもって対応にあたってきた。交付金を活用し、観光・畜産・漁業への支援を実施してきている。GoToキャンペーンが始まり、先週末には湯村温泉の荒湯も今季最高の人出であり、カニの競り市も豊漁・盛況であり、少しずつ元気が出てきている。

《新温泉議会議長》新年度になってから、5回補正予算を議決した。多種多様な支援を実施している。農業・漁業については、テコ入れとなるような取組をしてもらっている。商工業、観光業についても同じ。麒麟のまちの1市6町において、観光の取組が頼りだった中で、4月以降は観光客が皆無となり、同じ状況であると思う。連携中枢都市圏で皆が手を携えて、来訪者にはコロナでも安らぎを、帰る方には思い出を持ち帰っていただけるよう各市町の取組を進めてもらいたい。

《鳥取市長》新型コロナウイルス感染者が発生して以降、全国的には第3波の到来と言われており、明らかに状況が変わってきたと考えなければならない。対策として、手洗い・うがい・マスクの着用について、繰り返し呼びかけているが、鳥取は基本的な予防対策を真面目に励行されていることで、全国的にみると感染の拡大を防ぐことができていると感じている。

4・5・7月と8月を除いて毎月のように議会を開催いただき、関係予算は、定額給付金を含む合計で450億円程度となり、これまで経験のない基金取り崩しや交付金の活用により、様々な取組を実施している。

市としては、制度融資で中小企業への無利子融資を活用いただいているところであり、国の持続化給付金に該当しない方への市独自の支援も実施した。さらに、飲食業の方が大変な状況となっており、食事券を発行するなど対応を図ってきた。

またアフターコロナということで、光超高速通信網の整備について、市全域への実施を計画し、敷設にかかる。

また、残念ながら感染者への誹謗中傷が発生しており、これを皆でなくしていこうということで、チラシを作成し新聞折り込みで配布したところ。

なかなか終息が見込めない中で、感染防止と経済活動の両立をどう図っていくかが重要である。この圏域は、感染者数が少ないということで、安全・安心な地域であることも大いに発信していきたいと思っている。

《鳥取市議会議長》各町が様々な取組を実施されており、敬意を表したい。鳥取市議会では、年度当初に代表者会を開いて、各常任委員会・特別委員会において計画されていた視察、姉妹都市との交流を中止した。この費用で県外に出ている市出身学生への支援をしてもらいたいということで市長に要望した。現在、1,800人く

らの学生の申し込みがあり、夏・秋・冬便がある中で、5,000円を2回送付し、ふるさと産品で応援している。東京一極集中という話もあったが、学生を励まし、いずれ市に帰ってきてほしいということで、こういった事業に取り組んでいる。

それぞれの地域でいろいろな事業に取り組んでおられるが、住民のためがんばっていただきたい。

(その他意見)

《新温泉町議会議長》可能であれば、圏域の中での宿泊、圏域の中の住民の方々の交流を含めた宿泊に、各町が支援をするというような提案はできないものか。

《鳥取市長》圏域住民が、圏域内で宿泊をされた場合に、共通した何か支援策とのことで、いい取組になるのではないかと思う。お互いに共通して支援して、アフターコロナにおいても圏域の中で取り組んでいければ良いと思う。また、実務的な検討をしていけばいいのではないかと思う。

【麒麟のまち創生戦略会議】

3 議 題

議事事項

(1) 麒麟のまち観光局 令和2年度事業の進捗状況及び令和3年度事業計画・

予算について

・・・資料1

《香美町長》K P Iの中で、観光による収益性を高めていくということ、その通りだと思う。ただ、地域の中では、収入や収益を考えずに、我々の地域の誇るべき資源だというような観光の見方をしている。例えば香美町内の日本の滝百選に選ばれている「猿尾滝」があるが、道路からでも見えるので、観光客が全くお金を落とさない。一方で、行政的には、落石防止柵等の整備や、駐車場の地代など多くの予算がかかっている。また、周辺には道の駅が2、3あるが、猿尾滝の近くに観光客用トイレを用意しているので、無料で利用することができる。ツーリストも駐車場が無料だから、安価なツアーのお客さんを年間何万人か連れてきている。しかし、観光客から何らかの収益が上がるようなことをやろうとしても、周辺部が山間集落であるために住民が少ない・地域性もあるなど、専門的にそこに関わって、収益を上げるための観光のきっかけつかめないという状況で、行政経費だけはつぎ込んでいるというジレンマがある。

観光というのは、その地域が生きていくための収益があり、関連産業の中で生活ができるということが大前提であると考え取り組んでいるのだが、なかなか住民の皆さんには、自分たちの地域の誇るべき資源というのが、銭金は無関係ないという認識があるようだ。DMOのお話をいただく中で、現実とはちょっとすれ違っているのではないかと感じているので、何か良いアドバイスはないか。

《D M O》本論だと思う。直接の関係を掴むのは難しいかもしれないが、実際に猿尾滝を訪れた際に、ツーリングのライダーが大勢来ていた。ライダーの方は、直接的

にその場所でお金を使っていなくても、お土産を買ってもらう等の工夫を考
えるべき。あるいは一步手前で、ツーリングの人たちにもっと来てもらう方法
をしっかり考えていくことが必要。香美町内の道が「カーブが多くて楽しむこ
とができる」と各ライダーから伺うので、ライダーを増やし、土産消費につな
げるなどの作戦を立てるところが大事だと思う。

また、アンケート実施について説明したが、周辺の事業者や道の駅において、
どういった手段で来たのか、どんなお金の使い方をしたのかといったことを
調べていくことが必要。調べた上で取組を進めれば、間違いなく猿尾滝は観光
消費に寄与するとイメージしている。どうやってお金を使ってもらうかとい
うことの仕掛けをあちこちに埋め込んでいくことが大事だと思う。

《岩美町長》運営負担金について、単年度 75 万円で 3 年間ということだが、来年度以外の
全体（3 年間）の計画部分は予算額が出ていない。DMO 自体は存続すべきだ
が、今後も同じ負担金で事業をしていくということではなく、DMO としての
収益を得ながら、運営費負担金を下げていくことが理想だろう。先の見通しが
ないままで、3 年間の承認をするのはどうか。担当課長の段階で、論議して
いただくべきと思うがどうか。

《鳥取市観光・ジオパーク推進課長》基本的には、DMO 事務局長の説明にあったとおり、
これまでの 3 年間の実績を踏まえながら、運営負担金で賄えていない部分を
下の事業収支で全体をカバーしてきているという経過がある。本来 3 年間で
自立していくべきだったところだが、コロナの状況を含め、当面の 3 年間の事
業収益性を高めていく中で、運営負担金の圧縮につなげていく必要がある。

《D M O》運営負担金による DMO の活動結果と、地域の観光消費がいかに上がったか
ということの関連性などが、十分に説明できていないと感じている。

今後取り組むべき課題は、観光消費がどのように変化していくかを見極め、
また販売する商品において、「各地域での観光消費が上がっていくこと」を第
一に、加えてウェブを活用する中での手数料収入が増えるというような、DM
O 自体が観光の消費を高めながら、あわせて DMO 自らの収入が上がってい
くという仕組みをつくっていくことだと思う。来年度は、観光消費が上がって
いることなどを関連付けながら、事業負担金について説明できるように準備
していきたい。

(2) 令和 3 年度地方創生推進交付金を活用した連携事業について **資料 2**

(質疑なし)

(3) 因幡・但馬麒麟のまち連携中枢都市圏ビジョンの事業の取組状況

・見直しについて **資料 3**

(質疑なし)

4 鳥取市長あいさつ

5 閉会